



# グリーンポトスニュース

36号：2000年8月

太陽の輝きも一段と強くなり、夏本番です。冷房の効いた部屋に引籠もっていないで大いに汗をかきたいものです。今月の話題は『膀胱炎』です。

## 膀胱炎

夏は、暑い日が続きますが、山や海に出かけるには絶好の季節です。夏休みもあるため、外出も多くなり、汗をかくことが多い季節です。汗をかくと体内の水分も不足し、いろいろな病気になってしまいます。

膀胱炎も比較的夏に多い病気です。汗が出るため、体内の水分が不足し、尿量が減少してしまいます。その結果、膀胱内に細菌等が繁殖しやすくなり、膀胱炎を発生します。症状としては、排尿したのに、まだ、尿が残っているような感じがしたり、排尿時に痛みを感じたりします。

原因としては、逆流性の感染が多いです。つまり、大腸菌などの細菌が、尿道口より、逆行し膀胱に入り、膀胱炎が起きるのです。先程、話したように、夏は尿量が減少しやすいため、細菌の逆行を招きやすいのです。

膀胱炎は女性の方が罹りやすい疾患です。女性の場合、尿道口と肛門が近いため、細菌が尿道口に入りやすく、特に夏の場合は、汗をかくため、その確率が高くなります。

予防としては、まず、水分を多く取ることです。水分を多く取り、一定の尿量を維持することです。また、汗をかいたらできるだけ、シャワーなどで身体を洗うようにします。

しかし、一度、膀胱炎になった場合は必ず、お医者さんにかかってください。膀胱炎を放置しておくと、腎盂腎炎になる可能性もあり、そうなると入院治療も必要となってきます。ですから、できるだけ早く治療を受けてください。治療としては、水分の摂取と、抗生剤の投与が主です。症状がひどい場合は、点滴を行います。

暑い夏、水分の取りすぎもお腹をこわす原因にもなりますが、不足することも病気を招きます。せっかくの夏ですから、しっかり水分を取って、汗をかくことをお勧めします。

